

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100269		
法人名	有限会社コンフォート		
事業所名	グループホームなげ～ま原		
所在地	沖縄県那覇市仲井真238-3		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100269-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100269-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 10月15 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人の理念である「支え合う快適な暮らし」の実現に向け、利用者を支え、職員同士の支えを構築するため職員同士の情報共有、法人と現場の情報共有を図っている。</p> <p>今年度は、スキルアップを目指し社内研修、社外研修に力を入れている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>食事面で利用者の希望や体調面に配慮した献立を3食事業所内で調理している。利用者は職員と一緒に食材の買い物に出かけたり、調理の下ごしらえや味見等にも参加している。利用者の能力を活かし役割を担ってもらう支援が行われている。日常的外出に関しても本人の希望や意向に添って、近隣を散歩したり、ドライブに出かけ、気分転換や五感の刺激を受ける機会を設けている。管理者は具体的に業務分担や勤務調整を職員と話し合い、意見や要望の声が聞こえる職場の環境整備を心がけている。職員同士も互いに支え合い、助け合い、楽しみながら利用者支援に反映できるように日々のケアに努めている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念実現のため職員と代表者との連携を深めている。	法人が作成した基本理念である。職員は勉強会やミーティング等で理念に基づいた日々のケアの振り返りや情報を共有している。職員同士も支え合いを意識しながら、利用者に寄り添い、理念に基づいた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との連携。また、施設裏の公園への散歩などで地域との交流を図っている。	保育園児が散歩途中に立ち寄ったり、事業所行事「クリスマス会」のケーキを利用者と一緒に作る等の交流がある。近隣に複数の自治会があるが、特定の自治会には加入していない。近隣住民から野菜(ニラやゴーヤー等)の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の祭り等を通じて地域との関わりを図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、地域包括支援センターの会議参加、また家族、地域の方々の参加ができる様になり様々な意見が得られている。	利用者、家族、行政職員が参加して定期的に会議が開催されているが、地域代表の参加が一度も見られない。管理者は民生員と保育園長に声かけ参加をお願いして回答を待っている。議事録は、会議の際に委員に配布している。	運営推進会議の構成員に地域代表の参加が望まれる。その際に会議の意義や目的等を説明して、今後の継続に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会、運営推進会議等で情報交換をしている。また、管理者は相談及び確認事項等を役所へ出向き協力関係を築いている。	事業所は、行政職員とは運営推進会議や2ヶ月に1回の市グループホーム連絡会で情報交換が行われ共有している。又、管理者は、毎月、地域密着サービスの制度確認や近隣の公園整備等の相談で出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング等で取り上げる等して日頃から意識している。	転倒予防の為1名ベッド柵1本を使用している。家族へは口頭で説明して同意を得て、同意書の作成も確認できた。リスクに関する家族との話し合いは重要事項説明書や面会時に行っている。検討会議や経過観察記録はなく、身体拘束に関する勉強会や研修会は開催されていない。	

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からのサービス内容を検討し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用した方が入居中のため連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約及び解約の説明を行っている。また、改定等は文書等により説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの意見交換、運営推進会議での意見傾聴で反映している。	利用者から「同法人事業所で週2回実施している交流会に参加したい」「家族と電話で話したい」等の要望や意見を普段の会話から聞いている。家族からは常日ごろの支援に対する感謝の言葉が多くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で必要に応じて代表者も出席して意見交換を行っている。	管理者は事業所職員全員参加で月1回ミーティング時や普段の業務時に聞く機会を設けている。これまでに職員から備品購入(ソファや台所の日よけ用簾等)や勤務時間調整(利用者の余暇活動時間確保等)の要望があり対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援を行っている。また、育児休業等を取得するなど職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、社内研修、社外研修を積極的に実施している。		

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者へのあいさつをする等して交流に努めている。また、社内の事業所間交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護者やご家族、又は本人から得た情報、性格、習慣を踏まえた本人主体の計画を立案し、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から、状態の変化等を報告することにより本音で会話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や病院等、関係機関と連携を図り体制づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のレベルに合った家事等を行い共に暮らす者同士協力し合えるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊は都度対応している。その際、ご家族の思い等情報交換をし、共有、調整を行っている。又、消耗品購入依頼をこまめに行うことで面会の機会を増やせるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受け付けている。はがきや郵便物等は、電話連絡や返信等に対応している。	馴染みのカラオケ店に出かけたり、友人が同法人事業所を利用しており、互いに行き来する等馴染みの関係継続の支援を行っている。又、家族と一緒に友人宅や妹宅を訪ねたり、お墓参りに出かける支援もしている。	

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格も考慮し席を配置している。席の間に職員が入り、入居者同士の関係構築を支援。又、全体で楽しめる時間がもてるように、全体レクの時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は支援、フォローをしている方はいないが相談等は常に受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴やご家族からの情報を基に本人の想いを会話、行動等で汲み取り、本人らしい生活ができるようにスタッフ全体で共有し、把握できるように心がけている。	利用者の殆どが意思疎通ができ、本人から直接思いや意向を居間や個別対応時(入浴やドライブ等)に聞いている。食べ物(ピザやラーメン等)の希望がある場合は体調面や気候等を考慮しながら支援している。表現が困難な方は表情や態度で汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族、本人から得た情報、日頃からの会話からの情報をスタッフ間で共有、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを中心に情報提供を行い、全体で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員から情報を取り、その情報を中心に、入居者本人、ご家族の意向も踏まえ、職員とのミーティングを基に介護計画を作成している。又、状態変化の都度計画の見直しを行っている。	介護計画は更新時、状況変化時による見直しが行なわれ6ヶ月毎に評価が行われている。職員からケア内容等の情報提供で余暇活動や役割(食事の下準備等)を担う個別支援計画となっている。担当者会議に利用者や家族も参加し意見はケアプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの提供、記録を行っている。プランに沿ったケアがなされてか判断基準にもなる。加えて介護計画を見直し実践できるように努めている。		

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2週に1回の訪問診療と週1回の訪問看護を導入し、緊急時等必要に応じて病院受診の対応をする等、本人やご家族の不安、負担軽減に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出を多く取り入れる等暮らしを楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護等を導入し、本人が安心して暮らせるように努めている。	本人、家族と相談のうえ、かかりつけ医を事業所協力医に全員変更した。定期訪問受診と緊急時の夜間診療も対応している。他科診療は利用者が入居前から利用の病院を継続して受診している。基本は家族対応だが職員も同行支援している。受診結果は電話や書面で受け、即日職員に周知の体制を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を導入し、利用者の心身の状況を伝え、適切なサービスが受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護支援専門員が病院に対し情報提供を行っている。また、相談員との情報交換をする等して本人が安心できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、家族との話し合い等を行い、方向性を共有し、職員に伝えている。また、看取りの研修会を開催する等している。	利用者の健康状態について主治医や訪問看護と密に情報交換を行っている。家族の希望があり、関係機関や職員と話し合いを重ね、昨年1名の看取りが行われた。看取りに関する職員研修も行われているが現状に即した事業所の方針は明文化されていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、管理者及び介護支援専門員に連絡する等して初期対応が遅れないようにしている。		

沖縄県(グループホームなげ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い避難方法を全職員が把握している。	昼夜想定で自主訓練を2度実施している。避難ルートは1階に2箇所あり、2階の居室から玄関に繋がるルートもある。職員が2階から利用者をシーツで搬送する訓練も行われ、職員全員が避難方法を身につけている。地域へ参加呼び掛けを行うも住民の仕事の都合等で参加が厳しい状況である。	管理者は地域のネットワークに働きかけ協力体制作りに尽力している。災害訓練時の地域住民の参加に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	好きな会話の内容を探し、本人が話しやすい環境ができるように努めている。	利用者からの意見や希望等はプライバシーに配慮し、個別に出かけた際の車中や、散歩時にじっくり聞くようにしている。入浴や排泄介助の際、同性介助を希望されている方は介護計画書に反映し、同性職員にて支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境をつくるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話から、一人ひとりの今の思いを探り出し、ドライブや散歩等を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服を選んでもらい気持ちの良い1日を送れるように支援している。又、洋服等の買い物に同行する等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が重ならないように努めている。又、野菜を切ったり皮を剥いたり、配膳下膳等調理への参加ができるように努めている。	利用者一人ひとりの好きな食べ物や味付けを把握している。予め献立表を作成するのではなく、当日冷蔵庫にある食材から献立を決めたり、利用者のその日の体調や希望に合わせた支援が行われている。食事介助は1名で、同席し食事を摂る職員は見られなかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事量や水分量を調整している。体調に影響のないように努めている。		

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。口腔状態に応じた方法を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのレベルや時間帯に応じて下着を使い分けている。仕草や排泄チェック表で判断しトイレ誘導を支援し失禁予防を実施している。夜間はポータブルトイレを利用する方もいるが、日中はトイレでの対応をしている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員ミーティングや申し送り等で利用者の昼夜の排泄状況を共有し支援している。異性介助も事前に利用者の同意を得ている。入院時はオムツを使用していた利用者が誘導等の支援でリハビリパンツ使用になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事メニューの工夫。乳製品を積極的に取り入れる等している。又、体操やレクの時間を設け便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回。体調や本人の希望に応じ時間帯や職員の調整をしている。 本人に合わせた介助方法で支援している。	入浴は週に3回を基本としているが、本人のその日の体調や希望に合わせて、時間を調整している。石鹸やシャンプーは本人の持ち込んだ好みの物を使用している。入浴日に合わせて着替え等の準備を職員と一緒にいる等の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に合わせた支援をしている。寝具類や室温等も希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を利用者別にファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしている。状態変化があれば、医師、訪問看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の片付けや台所の片付け等本人の希望に応じ役割が自然の流れでできている。また、同法人の別事業所へ訪問し合同レクをする等、気分転換を支援している。		

沖縄県(グループホームなけ～ま原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩やドライブを頻繁にしている。また、初詣や花見、消耗品の買い出し等も誘い出し外出への支援をしている。	ドライブや、食材の買い出し等で頻繁に外出している。当日本人の行きたいところを聞きリクエストに応じている。奥武島やニライカナイ橋は定番のコースになっている。昼食後に、利用者が車庫まで出て職員へドライブを希望する場面が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でお小遣いを事業所で管理しているが、外出時には一緒に買い物をするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚等、親しい方からの電話にはその都度対応している。手紙は書くことが困難な方は、受け取った際にこちらから連絡を取り、本人とやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り外部の光りを取り入れ不快な環境を招かないようにしている。また、フロアから外が見えるようにして季節を感じられるようにしている。	2階建ての建物で階段に昇降機が設置されているが、現在は使用していない。1階に2部屋畳間の居室がある。利用者は日中の殆どを1階フロアで過ごしている。利用者の希望で赤いソファが置かれ職員や利用者同士で会話を楽しみ寛げる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアで過ごす時間も多いが、昼寝等希望に応じて個々の部屋で過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや状況に応じて、畳を敷くなどしている。また、仏壇や親しんだ家具などを持ち込めるようにして、心地よく過ごせるように工夫している。	2階に7部屋がある。居室は洋間だが和室を好む利用者は畳カーペットを敷いている。ベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。居室の壁に利用者と家族と一緒に、家族写真やアイドル演歌歌手のポスターを飾り付けている。自宅からは仏壇や趣味の編み物用具の持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等は手すりを設置する等して安全確保に努めている。フロア内にはキーパーを置きお茶を自由に飲めるようにしている。		